



新島八重

会津藩士の娘、教育者

【メモ】新島八重を主人公にしたNHK大河ドラマ「八重の桜」が2013年に放送され、八重役を綾瀬はるかさんが演じました。

新島八重（1845～1932年）は、会津藩士の家に生まれた女性です。父親から砲術（射撃術）を習い、戊辰戦争（1868～69年）で戦いました。新政府軍が会津藩に攻め込んだと、八重は戦いで亡くなった弟の服を身に着け、銃を担いでほかの人々と一緒に鶴ヶ城に約1カ月立てこもりました。

戦争の後、八重は兄がいた京都に移り、キリスト教の学校をつくらうとしていた新島襄と結婚。2人で協力して学校（今の同志社大学）を運営し、キリスト教を広める活動と、教育に力を入れる取り組みをしました。

襄が亡くなった後、八重は世の中のために活動し、86歳で人生を終えました。

▲ 10月2日 福島民友新聞掲載

きじをよんでおもったこと、みんなとはなしてかんじたことをかこう。（120字くらい）
